

経営比較分析表（平成30年度決算）

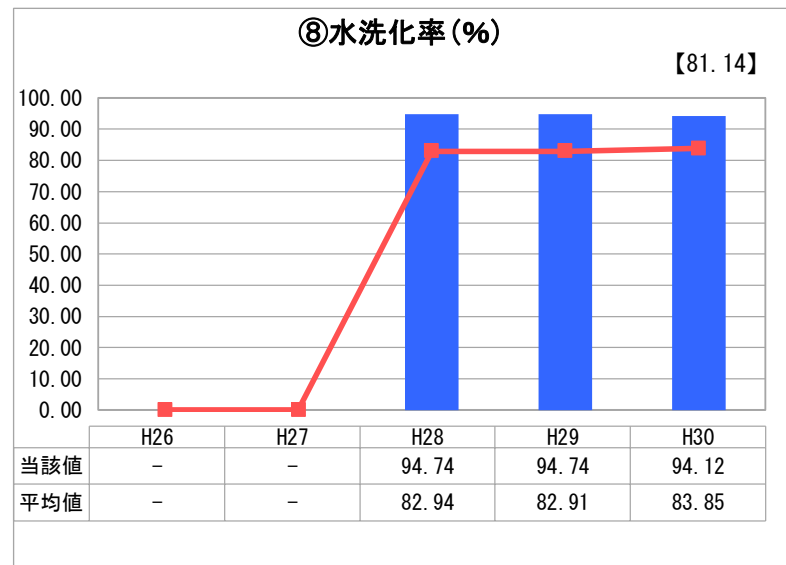
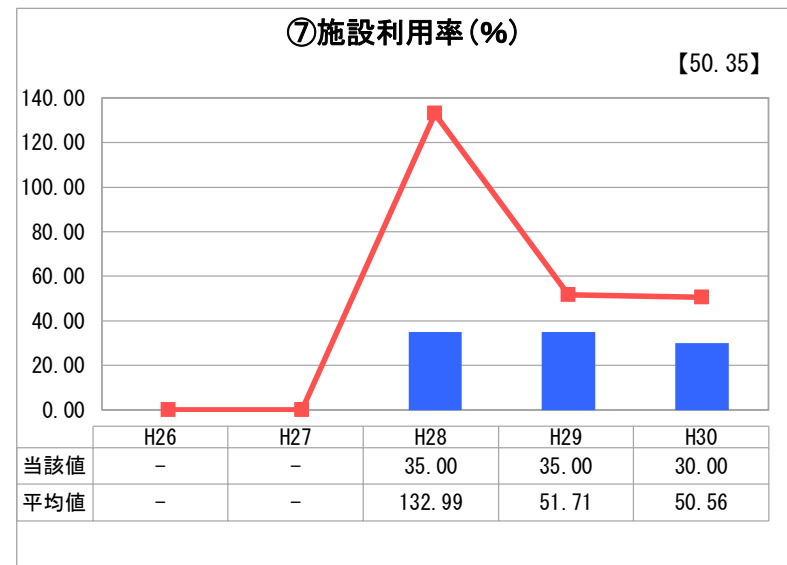
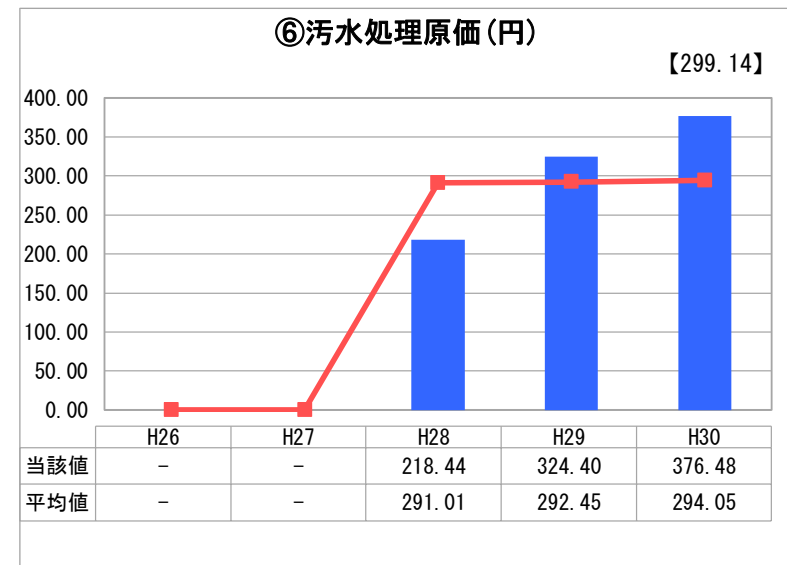
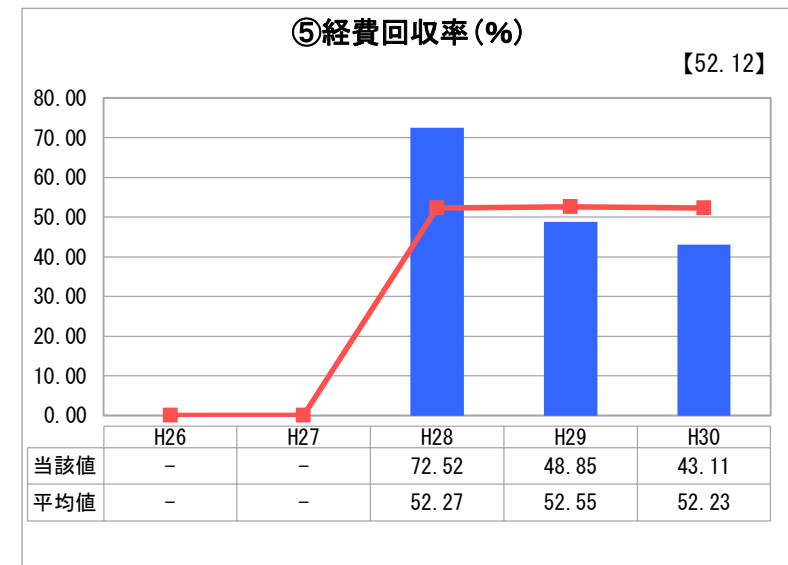
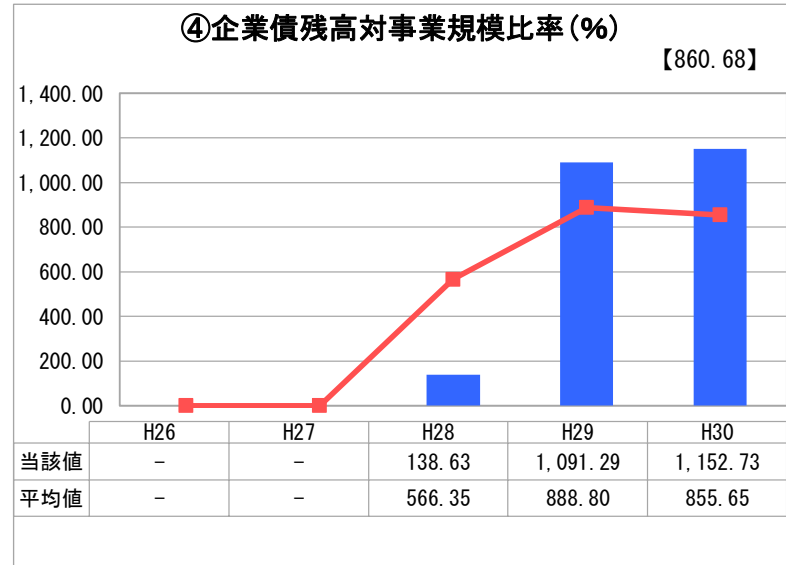
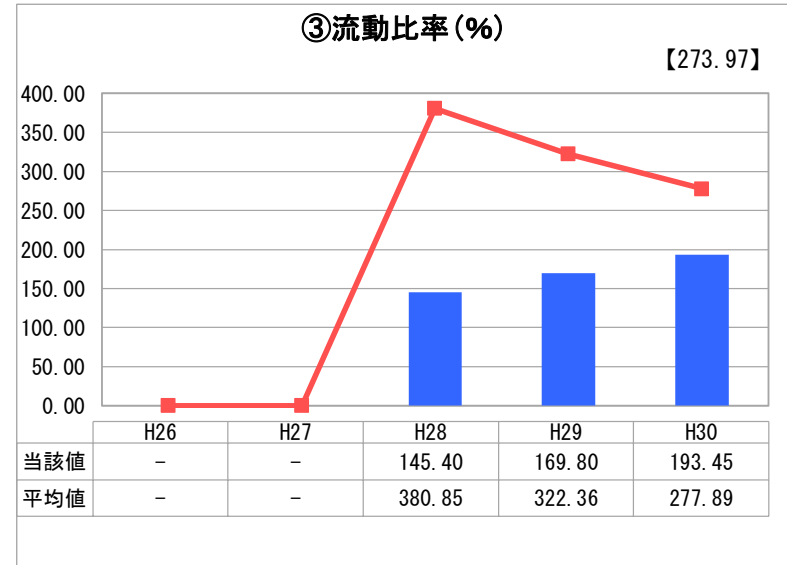
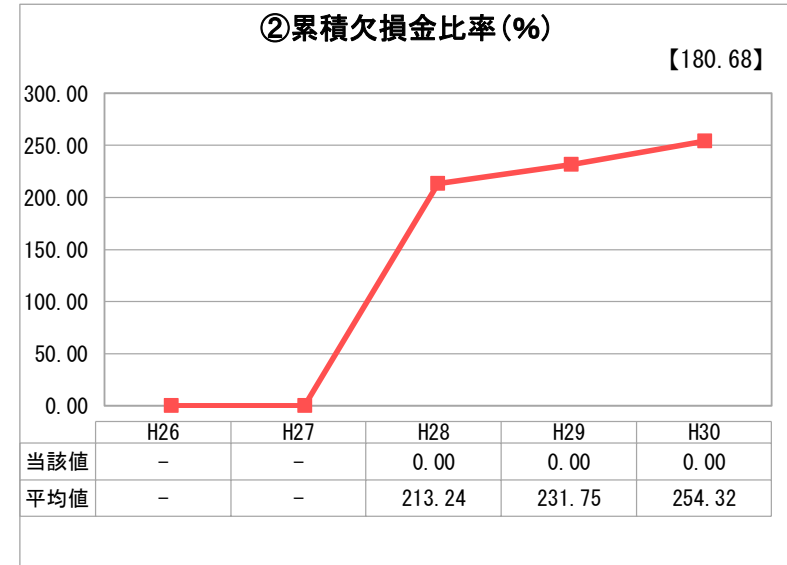
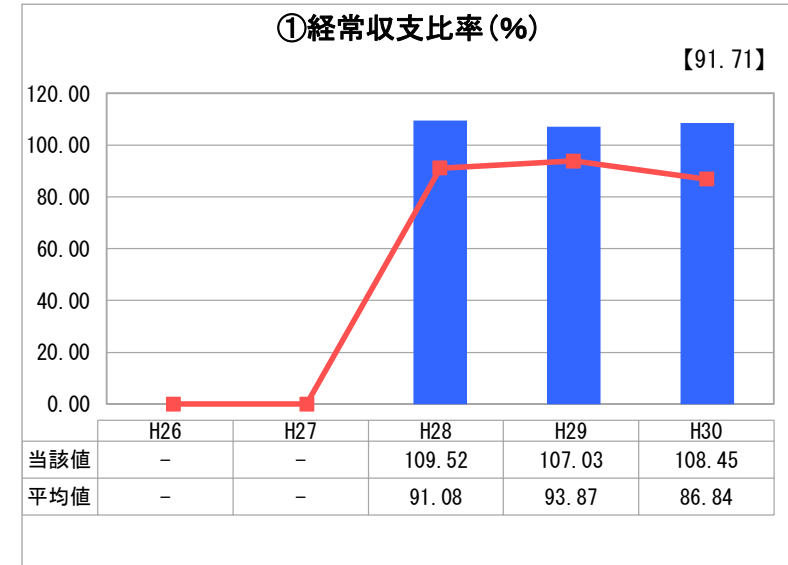
兵庫県 福崎町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	個別排水処理	L2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	11.07	0.18	100.00	3,610

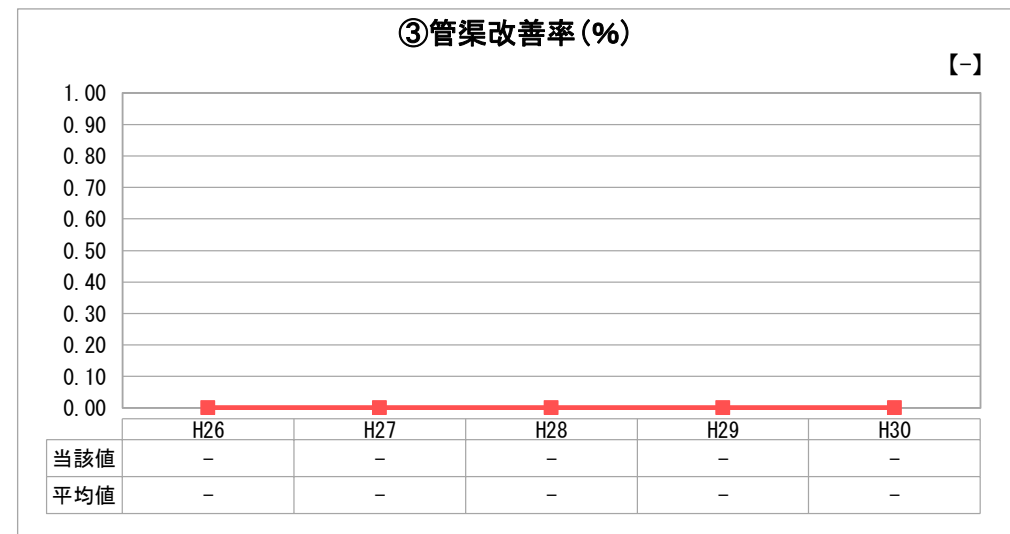
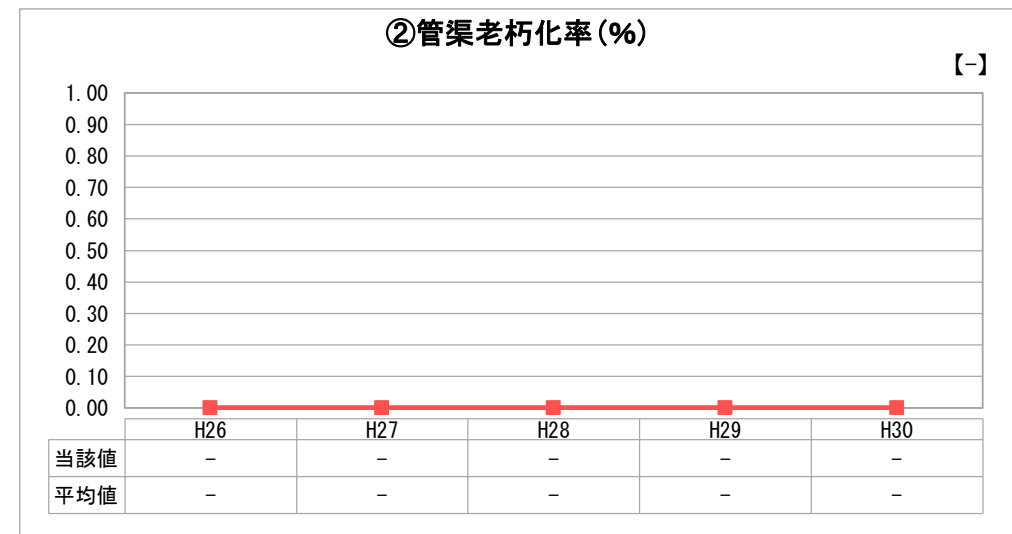
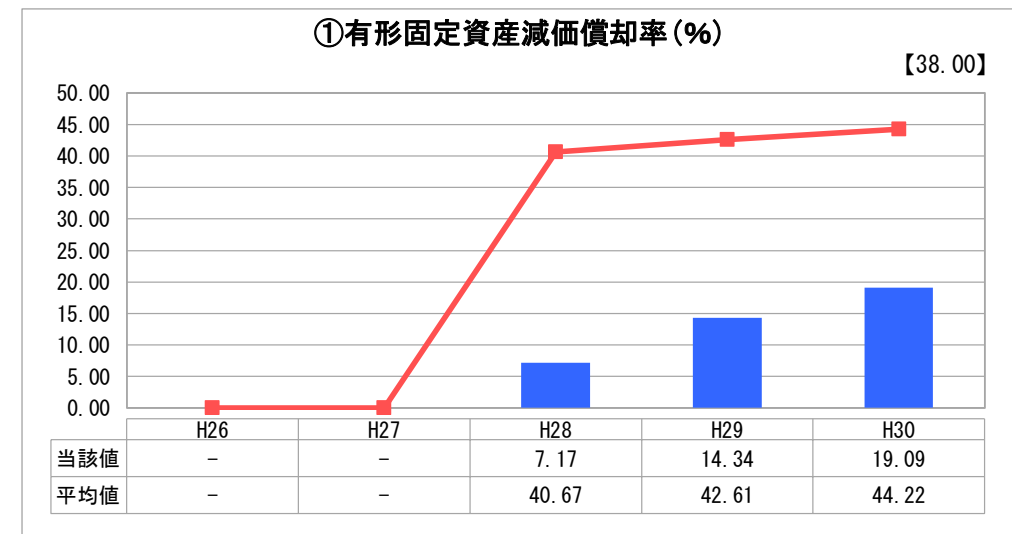
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
19,353	45.79	422.65
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
34	0.01	3,400.00

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成28年度から個別排水処理事業に地方公営企業法を適用した。
 ① 経常収支比率は100%を超えているが、使用料だけでは経費を賄うことができず一般会計からの繰入金に依存している状況である。
 ② 累積欠損金比率は類似団体より下回っているが、100%を超えており、1年以内に支払うべき負債をまかなえる状態となっている。
 ③ 流動比率は類似団体より下回っているが、100%を超えており、1年以内に支払うべき負債をまかなえる状態となっている。
 ④ 企業債残高については、当面大規模な更新の予定はなく減少する見込みである。
 ⑤ 経費回収率は類似団体の平均値を上回っており、これに伴い⑥経費回収率が類似団体より下回る数値となっている。今後も維持管理費（光熱費等）の上昇があれば汚水処理原価の上昇につながり、経費回収率への影響が考えられる。
 ⑦ 施設利用率、⑧水洗化率ともに横ばいの状況である。
 使用人口の変動は少ないが、節水型設備の普及や節水意識の高揚等により有収水量が減少傾向にあり、今後は⑤経費回収率及び⑦施設利用率の低下が見込まれる。

2. 老朽化の状況について

供用開始から20年が経過しているが、平成28年度に法適用したため、有形固定資産減価償却率は19.09%に留まっている。機器類の修繕は緊急対応で更新している状況であるが、施設（浄化槽）の耐用年数は経過しておらず大規模な更新については長期的な投資計画の中で検討していく。

全体総括

水洗化率は100%に近い状態であるが、使用人口及び有収水量は減少傾向にあり経費回収率の上昇は見込めないと考える。
 経営戦略においては、使用料見直しの検討についても言及しており、今後は使用料改定の時期等を検討する必要がある。
 不足する財源については、財政課との協議により一般会計からの繰入金の確保が必要であるとともに、当面は保有の基金を計画的に活用し収支均衡を保った事業運営を目指す。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。